学校だより Vol.91

2011.11

入学試験関係

【本　科】
- ●一般推薦／課題達成型推薦による選抜
  - ・推薦入学願書受付　1月4日（水）～6日（金）
  - ・推薦入試　1月14日（土）
  - ・合格内定通知発送　1月19日（木）
- ●学力による選抜
  - ・願書受付　2月6日（月）～8日（水）
  - ・学力入試　2月19日（日）
  - ・合格発表　2月24日（金）

【専攻科】
- ●学力による選抜（二次募集）
  - ・願書受付　11月28日（月）～12月2日（金）
  - ・学力検査と面接　12月9日（金）
  - ・合格発表　12月15日（木）
- ●社会人特別選抜（第2回）
  - ・願書受付　11月28日（月）～12月2日（金）
  - ・社会人入試　12月9日（金）
  - ・合格発表　12月15日（木）

行事予定（11月から3月）

11月
- 3日（木）　オープンキャンパス、ミニ研究発表会
  福島県中学生ブリッジデザインコンテスト
- 4日（金）　木曜振替授業
- 6日（日）　科学の甲子園全国予選
- 9日（水）　第3回TOEIC-IPテスト（3年・専1年）
- 12日（土）～13日（日）
  全国高専デザインコンペティション2011（釧路観光国際交流センター）
- 15日（火）　後期中間試験期間（11月28日（月）まで）
- 20日（日）　全国高専ロボットコンテスト2011（両国国技館）

12月
- 9日（金）　専攻科入試（学力・社会人）
- 21日（水）　閉寮（10：00）
  冬季休業開始（1月9日（月）まで）
- 22日（木）～23日（金）　全国高専プログラミングコンテスト（舞鶴市総合文化会館）
- 28日（水）　学校閉鎖期間（1月3日（火）まで）

1月
- 9日（月）　開寮（13：00）
- 10日（火）　授業開始
  月曜振替授業
- 12日（木）　学習到達度試験
  （コミ科除く3年生対象）
  基礎学力標準試験（数学）
  （コミ科除く2年生対象）
  他学年は臨時休業
- 14日（土）　推薦入試
- 25日（水）　専攻科特別研究中間発表会（1年）
- 28日（土）　卒業研究発表会（電気）

2月
- 1日（水）　学生総会
  専攻科特別研究最終発表会（2年）
- 6日（月）～10日（金）　後期期末試験
- 19日（日）　学力入試
- 20日（月）　学生臨時休業
- 21日（火）～24日（金）　補講期間
- 22日（水）　卒業研究発表会（機械）
- 23日（木）～24日（金）　卒業研究発表会（物質）
- 27日（月）　再試験期間（3月2日（金）まで）
- 27日（月）～28日（火）　卒業研究発表会（建設）
- 28日（火）　卒業研究発表会（コミ）

3月
- 1日（木）　終業式
- 2日（金）　寮送別会
- 8日（木）　地域フォーラム
  専攻科特別研究公開発表会（2年）
- 16日（金）　卒業証書授与式（いわき芸術文化交流館アリオス）
  修了証書授与式（いわき芸術文化交流館アリオス）
- 17日（土）　閉寮（10：00）

編集後記

震災で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

津波と地震、原発事故による放射性物質の飛散と沈着など、3.11以降は、まさか、本当に？の連続でした。避難所の開設、物不足、断水、錯綜する情報、災害派遣の自衛隊の活動など、いわきが被災地になること。私たちが被災することも、想定外のことでした。開校50周年を前に、試練の年となった2011年。91号では5月の入学式以降の状況と地域の復興に対する取り組みなどをお知らせいたしました。

高専ロボコン東北大会での優勝と活躍、全国大会での様子などうれしいニュースは、次の号でお知らせいたします。ご意見など頂ければ幸いです。

最新情報は本校ホームページをご覧ください。
http://www.fukushima-nct.ac.jp/

VEGETABLE OIL INK
表紙写真提供：福島高専写真部

Contents

02 校長　入学式辞
04 三主事・専攻科長あいさつ
06 各科の近況〔本　科〕
08 各科の近況〔専攻科〕
09 インターンシップ報告〔本　科〕
15 インターンシップ報告〔専攻科〕
17 体験入学を終えて
18 学生の活躍
24 部活動紹介
26 新任教職員紹介
28 東日本大震災特集

福島工業高等専門学校

第50回 入学式
Entrance Ceremony

第50回入学式及び平成23年度編入学式並びに第８回専攻科入学式式辞

福島工業高等専門学校長 奈 良 宏 一

先ほど、黙祷を捧げましたが、この度の大震災で尊い命を無くされた皆様に哀悼の意を表し、また、被災されました多くの皆様に心からお見舞いを申し上げたいと存じます。

本年度の新入学生210名、編入学生４名、専攻科生22名の皆様の福島高専へのご入学をお慶び申し上げます。また、ご列席の保護者の皆様、お子様のご入学を心からお祝い申し上げたく存じます。

例年は、本校構内の桜の蕾が膨らみ始めて春の訪れを感じる４月初めに行われる入学式ですが、本年は、大震災の影響で、端午の節句を過ぎて初夏の風がさわやかな本日、例年に比べると多少質素な形で執り行うことになりました。新入学生の皆様には、入学式が遅れ、大変不安に思われたことと思いますが、お待たせしましたことをお詫び申し上げます。

本年も、難関を突破した多数の新入学生諸君を、無事、福島高専に迎えることができましたことを教職員、在校生一同、大変喜ばしく存じております。

皆様が入学される福島高専は今からちょうど50年前の昭和37年に、国立高専第一期校として、他の11の高専と共に創立されました。本年度の入学式は、本校にとっては記念すべき50回目の入学式になりますが、震災の影響で多少簡素化された入学式となってしまいました。ご存知のように、国立高専は平成16年に、すべての国立高専が一つの独立行政法人「国立高等専門学校機構」として法人化され、現在、福島高専を含む51の国立高専が55のキャンパスで運営されています。この間、本校は、およそ7,000名の創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生を産業界に送り出してきており、さまざまな産業分野で目覚しい活躍をしています。本日、入学された諸君には、新しい日本を創成するために先輩達を凌駕する程の活躍ができるよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねていただきたいと思っています。

去る３月11日の大震災では、本校は、震度６強の大きな横揺れを受けました。しかし、昨年度までに体育館を含むすべての大きな建物が耐震改修を終わっていましたので、幸いにして、教育研究施設自体が使用不能になるような被害はありませんでした。今後、まだ、余震が続くかも知れませんが、諸君には、安心して、本校の校舎で勉強していただきたいと思います。

その一方で、地震直後に15メートルを超える大津波が福島県を含む太平洋沿岸部を襲い、多くの犠牲者を出しました。この大津波で、福島第一原子力発電所の冷却機能がすべて失われ、大量の放射性物質を外部に出す大事故が発生しました。事故は、小康状態を保っているものの、未だに、継続中であり、福島第一原発から45キロメートル程度しか離れていない福島高専も、まだ、放射線被害を受け続けています。幸いにして福島県中通り地域に比較していわき市の空間放射線量率は小さく、人体に影響がある線量ではありませんが、平常時に比べて、多少、放射線量が多いことは事実です。本校では、可能な限り、学生諸君が不必要な放射線を浴びなくて済むようカリキュラムの内容などを精査しながら学生の行動指針を作り、対応するつもりです。

福島県は、地震、津波に加え放射線被害も受けましたが、本校では、原発事故による避難まで含めると、在学生のおよそ４分の１が、自宅を失うなどの被害を受けました。本日、ここにいる諸君の中にも、地震や津波で家を破壊された方、または、放射線による立入禁止区域になっていて自宅に帰ることが出来ない方もいることかと思いますが、苦境に負けることなく、将来に向かって前向きに頑張ろうではありませんか。

若い諸君には、今回のこの苛酷な経験と教訓を忘れずに記憶し、同じ悲劇を繰り返すことがないように、本校で学ぶ専門知識を社会に活かしていくことを期待しています。専門知識をもって自分が将来の社会にできることは何かを考えながら勉強して下さい。

高専はこれまでの中学校とは違い、先生に勉強を教えてもらう場所ではなく、自ら勉強をする高等教育機関です。自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを先生に質問して確かなものとする姿勢を保って下さい。また、高専の５年間では、勉強と同時にクラブ活動を楽しみ、かつ、何でも話せる友人を作ってください。クラブ活動や友人によって皆さんの人間力が育くまれます。

福島高専は、卒業後のさまざまな進路を提供しています。５年間の課程を終えて準学士の称号をもって就職することもできますし、本校の専攻科に進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることもできます。また、大学の３年生への編入学への道や、高専卒業生のための大学である技術科学大学へ進学して修士または博士までの工学一貫教育を受ける道もあります。今から、保護者と相談して自分が進む道の先を見据えながら、日々健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んで下さい。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科５年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。本科４、５年から専攻科までの工学系カリキュラムである「産業技術システム工学」プログラムは日本技術者教育認定機構（英語表記の頭文字を並べてＪＡＢＥＥと呼んでいます）から世界水準の工学系大学教育プログラムであることが認定されています。文系のビジネスコミュニケーション学専攻も含む専攻科の教育プログラムを通して、諸君には、特に、地球的視野で考えられる能力、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力、新しい産業技術を創造できる能力を養ってもらいます。専攻科生として後輩の良き手本となるように日頃の勉学に励んで下さい。本日から、大学院への進学など将来の自分の進路を考えて、計画的に勉強をしてください。

本科並びに専攻科の新入学生諸君が本校を卒業するころまでには、日本は、この大震災からある程度立ち直って世界にその存在を示していることと思います。しかし、本当の復興までには10年単位の時間がかかるはずです。諸君が本校を巣立つまでに、人間力、創造力、実践力、コミュニケーション能力を身につけられるよう勉励努力し、災害に強い新しい日本を創世するための大きな力となるまでに成長することを祈念して式辞と致します。

三主事・専攻科長あいさつ

教務主事就任から半年余りが過ぎて

教務主事　青　柳　克　弘

今年の４月から教務主事を務めております物質工学科の青柳です。よろしくお願いいたします。３月11日の東日本大震災から約７ヶ月が過ぎました。今年度は、震災の影響で授業開始日程を遅らさざるを得ず、予定より１ヶ月余り後の５月９日にようやく始業式を行うことができました。前後して、年間行事予定の見直し、施設・設備の整備、地震対応・原発事故対応マニュアルの作成、被災した学生の追加入寮、放射線対策、累積被曝線量の測定等、震災後の安定した教育環境の整備に向けて対応してきました。現在、学生は比較的落着いた学校生活を送っているものと考えております。これからは、本校の特徴ある教育を維持・発展させながら、震災復興のための人材育成についても考えていかなければならないと思っています。

本校は、「教育理念」に根ざした「学習・教育目標」に基づき、「養成する人材像」を念頭に置いた教育を行っています。それらに合致した人材として成長した高専卒業生を実社会も大学も求め、期待しています。学生は、基本的生活習慣を確立し、いかなる状況下でも学校の授業を軽視せずしっかり勉強して、付け焼刃ではなく本物の力をつけるべく頑張ってほしいと思います。

文武両道の再興をめざして

学生主事　鈴　木　三　男

本校は創立以来、「文武両道」を教育方針に掲げ、教育を実践してまいりましたが、カリキュラムの過密化、学生のクラブ活動への加入意欲の低下や教員の指導時間の減少など、複合的な要因によって、課外活動への学生の関心は希薄になってきています。加えて大震災と原発事故によって、練習の時間や環境にも制限が加えられ、十分な活動ができない状況にありました。しかしそんな中でも、水泳部と卓球部女子より全国大会優勝者がでたことは、本校にとって大きな歓びであり、来年にはさらに多くの部活から良い報告が聞けるように努力していきたいと考えております。学校は学業と課外活動を通じての様々な人との交流や人間形成の場であります。学生が規律と秩序のある環境で日々過ごせるように、学生委員会は関連する教職員や機関と連携を計りながら、学生を支援してまいります。社会の規則を守る心、他人への思いやりの心、自律心の育成は本校の教育理念ですが、保護者の皆様のご協力のもとに学生にとって快適な学習環境を構築したいと願っております。

寮の近況報告

寮務主事　鳥　居　孝　栄

昨年度から引き続き寮務主事を務めております鳥居です。今年は、震災の影響で、前期のスタートが例年と大きく異なりました。棟と棟のつなぎ目の部分が一部崩れてしまい、いまだに通行禁止の個所がいくつかあります。また、震災のために通学が困難な学生を新たに寮に受け入れることにしました。今では、これらの学生のうちの何人かは、落ち着き先が決まって寮を出ていくことになりましたし、棟と棟のつなぎ目の崩れた部分については、予算が確保できる見通しが立ち、近々工事が始められる予定です。

また、昨年度より、「特別在寮」がスタートし、教務委員会・学生委員会が認めた活動を行うという目的ならば、長期休業中に寮の自室に滞在できることになりましたが、今年はそれに加えて、震災で帰省が困難な寮生についても、寮の自室に滞在することを認めることにしました。

棟と棟のつなぎ目の修復以外にも、生活環境・施設設備の整備改善は今年度も進めていきます。今年は、こずえ棟のトイレの洋式化、女子浴室のシャワーの改修、男子浴室の扉の改修などを進めていく予定です。

専攻科の近況

専攻科長　大　槻　正　伸

この３月の大震災・原発事故の影響で、今年度は約１カ月遅れでスタートしましたが、専攻科では授業、研究等を例年通り着々と行っております。

９月に１年生の第一回特別研究発表会があり、各自今後の研究の方向性について発表しました。２年生は全員学位授与機構に提出する学修成果レポート等の書類を整備しました。今年度も全員の学位取得を目指します。また進路ですが、公務員、大学院の試験が少し残っていますがほぼ決定しました。最近の状況を見ますと、大学院進学者数が減少しています。しかし各国立大学は、高専専攻科からの入学生を大いに期待していますので、１年生は大学院進学も考慮してほしいところです。

さて今年度後半ですが、まず11月19～20日に第一回東北地区高専専攻科研究発表交流会が仙台で開催されます。本校からは24名が参加予定です。この他、専攻科２年生は東京での学位試験、特別研究最終発表会、外部発表会と、また１年生は、年度末に第２回の特別研究発表会と重要な行事を予定しています。今後も専攻科では、新たな取り組み（今回原発事故で中止となったフランスリール大学との交流等）を考慮しつつ教育・研究の充実にむけて取り組んでまいります。

各科の近況［本科］

一般教科の近況

一般教科長　高　野　克　宏

この度の大震災にともなって新学期のスタートが１か月余りも遅れました。１年生の担任はもとより、われわれ一般教科教員はまだ見ぬ新入生たちの安否を心配しながら、入学式を心待ちにして過ごしておりました。結果的に、新入生をはじめ大部分の学生とともに無事、新学期をスタートすることがかない、通常の学校生活を再開できたことに改めて喜びを感じているところです。

さて、教員の異動についてご報告いたします。数学科の鈴木正樹先生が昨年度末をもって転出され、代わって宮本拓歩先生が４月に着任しました。混乱のさなかの着任となり、ご本人は相当に戸惑われたことと思いますが、現在はすっかり学校に慣れて、学生たちと和気藹々、活気あふれる授業を展開しております。

大震災からの復旧・復興は道半ばであり、われわれを取り巻く環境はいまだ不安定です。こうした社会状況のもと、若い学生たちの心には将来にわたって少なからぬ影響が残るのではないかと心配しているところです。勉学を中心に、クラスでの交流や部活動などを通して学生たちが生き生きとした学園生活を送っていけるよう、一般教科教員一同は学生への支援にこれまで以上に取り組んでいく決意でおります。

機械工学科の近況

機械工学科長　渡　辺　敏　夫

佐東信司先生はこの３月に、定年退職されましたが、新教育ＧＰ「異学年協働によるループ型創造性実践教育」の担当特命教授として、引き続き機械工学科のモノづくり教育を中心に担当していただいております。この新教育ＧＰは平成21年度から始まり、今年度が最後の年度で、この取り組みをもとに機械工学科におけるより効果の高いモノづくり教育を完成させ、更に発展させて行きたいと考えています。佐東先生の後任に、北海道大学から木下博嗣先生をお迎えしました。木下先生は佐東先生と同じ材料学、原子力工学が専門で、これからの機械工学科の発展に力を振るっていただけるものと期待しています。

今年度は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響で新年度の開始が遅れ、就職や進学先の決定に影響が出るのではないかと心配しましたが、順調に進路先が決定しております。機械工学科38名の学生の進路決定状況は、27名が就職、11名が進学希望です。多くの学生が第１希望の進路先を決めることが出来ました。現在、進路先が未決定の学生が数名いますが、彼らも納得のいく進路先を決めてくれるものと思います。学生にとって、高専での教育は大変な一面があるかもしれませんが、彼らの進路先決定状況を見ていると、しっかりとした教育を身につければ、その成果が必ず役立つことを実感します。我々教職員一同、学生諸君に将来役立つ実力が身につくように、努めて参りたいと思います。

電気工学科の近況

電気工学科長　鈴　木　晴　彦

電気工学科棟は福島高専の専門学科棟なかで最も古い建屋でありましたが、平成22年３月末に耐震補強改修を済ませておりました。その約１年後の今年３月11日、東日本大震災の発生となりましたが、この耐震改修により、電気工学科棟建屋の被害は殆どなく実験機器等の一部破損のみで済みました。そして５月10日（火）には、約２ヶ月ぶりに電気工学科棟の実験室・研究室に学生がもどり、平成23年度の授業がスタートとなりました。

このような震災による様々な環境変化のなか、「高専間教員交流制度」により、函館高専・電気電子工学科・准教授の三島裕樹（みしま　ゆうじ）先生が、平成24年３月までの任期で着任となりました。ご専門は電力システム工学であり、最近よく耳にする「スマートグリッド」の研究をされています。授業科目では、「電力システム工学（５年）」や「電気機器Ⅱ（４年）」、また「創作実習（４年）」、「学生実験（３，４年）」を担当して頂いております。

さて、超氷河期といわれる就職戦線、それに加えての「大震災」。この影響が大きく、今年度の就職活動は過去に例を見ない状況になりました。しかし現在、就職希望者のほとんどが内定を得るに至り、また進学希望者は概ね進路を決定しております。これからは平成24年春の卒業に向けて、学習・研究に邁進するものと期待しております。

物質工学科の近況

物質工学科長　天　野　仁　司

今年度は、震災の影響で例年にも増してハードな学科運営を強いられていますが、若い教職員の献身的な協力がありましたので、何とか学科長の職務をこなせています。また、就職・進学担当の職務も、５年生の積極的な行動によって、例年と同じ時期に完了できました。その一方で、昨年度は卒業式が中止になり、現５年生では、就職・進学先をやむを得ず変更した者もいました。震災の影響は、学生にも確実に及んでいます。

５月から遅れて始まった授業では、学生の元気な姿を目にして、復興への光に接した思いでした。しかし「学力の低下傾向をいかにして食い止め、再び本学科を物質工学系の頂点に押し上げるにはどうしたらよいのか」という難題もあります。教職員一同、これまで以上に奮闘努力する必要があると再認識いたしました。

良い兆候としましては、新入生の積極性があげられます。ゆとり教育の弊害で、受身の傾向が強く、独創性や聡明さの不十分な学生が年毎に増えてきた中で、今年度の物質工学科の新入生は、入学当初から臆することなく高専になじみ、授業や課外活動にも積極的に取り組んでいます。日本一奪還を大いに期待したいクラスです。

建設環境工学科の近況

建設環境工学科長　金　子　研　一

学生の教室にエアコンが設置されました。最後に残った建設環境工学科棟のリニュアルは24年度の概算要求を文科省に出している状況です。早く決まると良いのですが、その前に水理の実験装置が30年ぶりに新しくなります。育休中の二人の女性教員のうち、高荒先生が10月から戻ってきました。職場と育児という高専としても初めての課題に取り組んでいます。

５年生の就職については、さすがに東電からの募集が無く苦しいスタートでしたが、ＪＲ東、ＪＲ東海、ＪＲ貨物といった人気企業をはじめ、２年連続で三菱地所コミュニティ、竹中土木、ライト、日鉄パイプラインで内定を受けました。先輩たちの頑張りが次の採用に結びついているようです。進学も長岡技科大、北大など順調です。専攻科にも２年連続してトップの学生が入学します。

震災から半年が過ぎ、卒業式ができなかった卒業生も三々五々学校を訪ねてきて、元気な姿を見せてくれるようになりました。先生たちも、いわき市の復興会議委員長、土木学会の東北支部の委員、道の駅よつくら港交流館の選定委員長など復興に向けて地域に貢献しています。建設環境工学科の多くの仲間が震災から立ち上がることを願っています。

コミュニケーション情報学科の近況

コミュニケーション情報学科長　渡　部　美紀子

昨年度末、長年福島高専に御貢献いただいた森川治先生が退職されました。今後とも御協力いただきたいことをお願いして御理解いただき、この４月からは、非常勤の形でお力添えをいただいております。また本年度から情報分野で湯川崇先生が赴任されました。本学科の学生が、ますます情報の分野の勉強に取り組んでくれることを期待しています。

今年は、震災に見舞われたことがやはり一番大きな出来事でした。私たちが失ったものは、有形無形を問わず、測り知れません。時間をかけて、少しずつ埋めていくしかないのでしょう。このような状況下ではありますが、本科生、専攻科生とも、皆、必死に自分の道を模索しています。

コミュニケーション情報学科は今年で18年目を迎えます。昨年の12月30日、ワシントンホテルで開かれた合同同窓会には、200人近い有志が集まりました。これからもコミュニケーション情報学科の卒業生がますます活躍し、後進への道を切り開いてくれることを願っています。

各科の近況［専攻科］

機械・電気システム工学専攻の近況

機械・電気システム工学専攻長　鈴　木　晴　彦

平成23年５月、「東日本大震災」による多大な影響を受けながら、新たに８名が機械・電気システム工学専攻へ入学し、２年生12名と合わせ20名の在籍となり、専攻科の平成23年度授業がスタートしました。わたくしは行事担当する専攻長として、日頃から学生との連絡係でしたので、３月11日の大地震発生直後から、在籍する専攻科学生全員の安否確認をすすめました。地震発生から59時間後、当時在籍する60名全員の所在が、本人からの携帯メール等の連絡により直接確認できました。全員無事でした。

さて、今年度の専攻科１年生の長期インターンシップは、震災による影響から実施期間を短縮としましたが、現時点で約８割が実施済であります。また２年生の就職活動にも震災影響はありましたが、幸い７月末には就職希望者全員が内々定を頂きました。内定先は、富士通、ＪＲ東日本、セイコー・エプソン、資生堂、ＮＴＴファシリティーズ、東北リコー、シーメンス・ジャパン、東京エレクトロン、キャノン・アネルバ（２名）また地元企業ではアルパイン技研であります。また９月になり、進学希望の学生が九州大学大学院への進学を決定しました。そして２年生では、海外での国際シンポジウムに参加し、専攻科の研究を発表した者もいます。今後は12月の学位試験に向け、更なる活動が続きます。

物質・環境システム工学専攻の近況

物質・環境システム工学専攻長　山ノ内　正　司

今年の進路状況について申し上げます。

現在、企業への就職希望者７名のうち、６名が内定をいただいています。今年は、地震、津波そして原発事故の混乱の中で、本格的な就職活動が開始できたのは５月の連休明けでした。被災地の学生の就職活動に支障がないように配慮してくれた企業もあったのですが、大手企業の多くが選考活動の終盤期を迎えており、かなり苦戦を強いられたのが現実です。

公務員試験関係では、希望者３名のうち、２名が福島県上級職採用試験に合格しています。本専攻からは初めてになります。昨年度のいわき市上級職に続いての合格で、新しい流れの始まりが感じられます。

進学希望の２名は北海道大学大学院と東北大学大学院に合格しています。いずれも本専攻からは初めての進学先です。将来大学院まで進学したいと考えている者にとっては、本科から大学編入学・大学院と進むよりも、専攻科から大学院へ進む方が、経済的にも合格しやすさの面からもはるかに有利です。この流れが徐々に太くなり、より高度な研究を目指す専攻科生が続いてくれることを期待しております。

ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長　坪　井　晋　也

今年度は５名が入学し、新しい２年生の９名をくわえて、合計14名でビジネスコミュニケーション学専攻はスタートしました。

５名の新入生は３つの研究室に所属し、それぞれの研究の方向性を定めつつあります。先日、第１回目の特別研究中間発表がありました。例年と異なる行事スケジュールということもあり、どのような発表になるかと、多少不安ではありましたが、全員、しっかりとしたプレゼンがおこなえ、この先が楽しみに思えました。

２年生についても、９名のうち、４名は民間企業に内定いたしました。残りの５名のうち、公務員希望が３名、大学院進学希望が２名で、各々、目標に向かって着々と準備をすすめているところです。学生の目標達成と同時に、今後ますます、専攻科が充実、発展するよう取り組んでいきたいと思います。

Internship

インターンシップ報告

震災後の混乱が続く中、多くの企業、地方自治体、大学などからご協力を頂き、今年度もほぼ計画どおりにインターンシップを実施することができました。ご尽力頂いた皆様に心から御礼申し上げます。

本校では、４年生と専攻科１年生に校外実習、実務研修などの科目を設定し企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割や実社会で自己の学習レベルを確認することを目的としています。個々の経験をそれぞれの学習に活かして、社会人として求められる知識などを卒業時までに身に付けるように教育と指導を行っています。

長岡技科大オープンハウスに参加して

機械工学科４年　佐藤　創

私は、８／22～８／26の５日間、長岡技科大において、「マグネシウムを用いたバイクの高温部材」に関するテーマの実習を行いました。実習先はマグネシウムなどの軽金属材料について研究を行っている鎌土晴信先生の研究室でした。

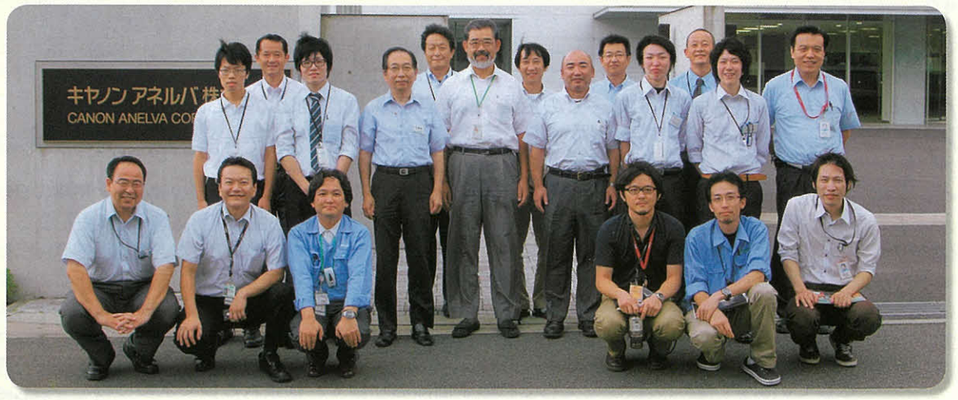
まず初日にオリエンテーションを受けた後、マグネシウムの性質や世界各国でのマグネシウム利用の実情、マグネシウムを利用した製品の例などについての講義を受けました。マグネシウムは実用金属の中で最も軽く、まだ研究・開発の途中の金属であるということから、最先端の材料であると教えていただき、材料学で学んだ知識と照らし合わせ、マグネシウムについての理解を深めました。研修の際は、研究室の学生の方に企業と共同で研究しているマグネシウム材料についての説明も受けましたが、企業と共同で新しいマグネシウム合金の研究している、という研究内容の高度さに圧倒されてしまいました。

また、研修時間外では、研究室の学生の方に大学の構内を案内してもらったり、グラウンドでソフトボールをやったり、研究室内でお好み焼きパーティー（！）を行ったりするなど、とても楽しい時間を過ごすことができました。

インターンシップ最終日には学会発表を想定して、与えられたテーマについての学習内容をプレゼンテーションしました。私は、マグネシウムを始めとする材料の特性を調べる際に用いられる走査型電子顕微鏡（ＳＥＭ）について調べて発表をし、発表後には先生や学生の方から貴重なアドバイスやお褒めの言葉を頂くことができました。

今回のインターンシップを通して、今まで身近に感じることができなかった大学での研究について知ることが出来ました。お世話になった皆様に感謝し、これからの学校生活に役立てていきたいと思います。

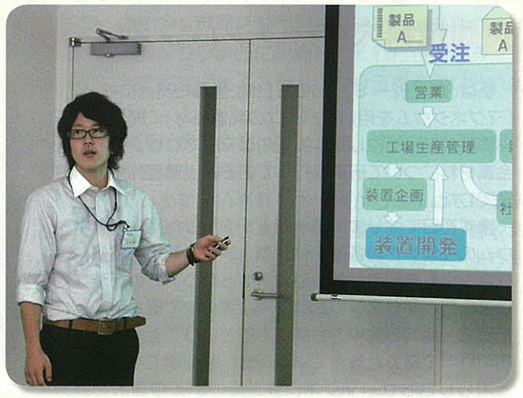
キヤノンアネルバにおけるインターンシップを終えて



機械工学科４年　鈴木惣一朗

キャノンアネルバでは、４名の学生ごとに課題を設定していただき、実際の現場と同じ様に設計、製図、部品受注などのモノを作る流れを経験することができました。最初は、ＣＡＤの使い方や馴染みのない製品に戸惑うこともありましたが、課題を通して様々なことを習得でき、貴重な体験をさせてもらいました。実習最終日には、各課長さん、常務さん、佐東先生、松尾先生をお招きし、課題の成果を発表しました。毎日が充実していて、とても楽しいインターンシップでした。

機械工学科４年　吉田　匠



実習内容は、主にＣＡＤを用いた実際の装置の設計製図でした。本格的な装置の図面を描くのは未経験だったので、規格や作図のルールなどわからないことも多く、最初は苦労しました。しかし、高専の授業で教わったことを使う場面も多く、授業の大切さを改めて実感しました。今回のインターンシップで多くのことを学ぶことができ、貴重な体験ができたので良かったです。

機械工学科４年　吉田　悠将

私は、主に開発設計部門で就業体験を行いました。最初は何をすればよいかわからず、指導者の指示で行動していました。しかし、仕事に慣れていくうちに、自ら考え、意見を持って行動できるようになりました。２週間の短い期間でしたが、とても充実していて楽しかったです。また、社会に出て、技術者として働く上での心構えを学ぶことができたので、この経験を将来に活かしたいです。

機械工学科４年　川名　昌

私は、２次元と３次元のＣＡＤを使って、「ＨＥＡＤ用スパッタリング装置の蓋の開閉角度の検討」に関する設計を行いました。指導の担当者は、質問するたびに細かい所まで教えてくださったのでやり遂げることができました。この実習を通して、キャノンアネルバは大らかな社風であると感じました。上司でも部下でも、仲良く話す姿がよく見られ、実習報告会でも冗談を言って緊張を解していただきました。実習後、もっと積極的に質問をすればよいというアドバイスをいただき、今後の生活に活かしたいと思います。将来は、ぜひキャノンアネルバのような会社で働きたいと考えています。

ワタミファームでの研修を終えて

電気工学科４年　髙橋　雄一

福島高専４年生の夏休みといえばインターンシップです。普通は自分の専攻している分野の希望する企業・公共団体に受け入れていただき、そこで約１～２週間、実際の会社の中で社員の方と一緒に仕事をさせていただくというものです。しかし、私の場合違いました。

震災後から『農業』を意識するようになり、その中でも放射線による農業に与える影響が一番考えさせられました。そして野菜工場というものに興味を持ち、野菜工場にインターシップでは行けないかということを濱崎先生に相談したところ、いくつかの企業に連絡を取ってもらいました。しかし、受け入れてくれる企業はありません。そんな時に濱崎先生から勧められたのが今回お世話になった「(有) ワタミファーム」でした。ワタミファームは居酒屋チェーン「和民」と同じグループ会社の農業生産法人で、「お客さまに、安全で安心な食材を使った料理を提供したい」という考えのもと設立されて会社です。ここで２週間お世話になりました。

作業は、夏ということがあり、朝５・６時から畑にいき、ナスとオクラの収穫、パック詰め、除草などを行いました。一番印象に残っているのは、広大な畑の除草です。ワタミファームは有機農業を行っているために、雑草は手、または鍬で、すべてを取り除かなければなりません。大きい畑だと４時間通して除草を行っても終わりません。しかし、すべてやり終えたときの達成感は、疲れを一瞬忘れさせてくれるほど素晴らしいものでした。

体験の間、社長とお話をする機会がたくさんあり、今後のビジョンなどをお聞きしました。自分自身を売り込むためにはマナーや礼儀といったことが重要であるということがわかり、自分にはその部分が足りないということがわかったので今後学んでいきたいと思います。

会津オリンパスの研修について

電気工学科４年　本田　有孝

今回私は、インターンシップで会津オリンパスさんにお世話になりました。インターンシップの主な目的は、会社の雰囲気を知ることと実用的な技術の経験にありました。

今回、私が配属になった部署では、主に内視鏡の内部基板の検査や、検査用の冶具の設計・作成などをおこなっていました。２週間という短い期間ではすべての仕事を経験することはできませんでしたが、冶具の作製、高速信号測定、プログラムの書き換え、トランジスタの変更検討などをおこなわせていただきました。冶具の作製は、主に半田付けの作業でした。半田付けの経験があまり多くなかったので、作製にとても苦労しましたが、周りの人たちの親切なアドバイスもあり、何とかやり遂げることができました。高速信号測定とプログラムの書き換えでは、実際の内視鏡に使われる基板を扱いました。基板も計測機器も初めて扱うものだったのでとてもいい勉強になりました。トランジスタの変更検討では、実際の検討対象のトランジスタを使用して模擬回路を作成し、実験をおこないました。最初におこなった実験では、模擬回路の不備のため実験がうまくいきませんでした。失敗した原因追究・改善策の検討の結果、２回目の実験はうまくいきました。失敗の原因追究や改善策の検討、結果の整理・考察は、学校での実験経験がとても役立ちました。

今回のインターンシップでは、学校では学ぶことのできない知識や技術をたくさん体験できたので、とても有意義な時間を過ごすことができました。また今回の経験を通して、学校で学んでいることが直接ではなくても、確実に社会に出たときに役立つことを実感しました。この経験を、今後の高専生活に生かしていきたいです。

インターンシップを終えて

物質工学科４年　岩崎　真歩

私はインターンシップで神奈川県平塚市にある富士フイルムファインケミカルズ株式会社に２週間お世話になりました。富士フイルムファインケミカルズ株式会社は有機化合物受託製造、有機合成薬品の製造販売を行っている企業で、平塚工場では少量多品種の化成品を製造しています。そこで、高専に入学してから強く興味を持つようになった有機合成と有機材料についてたくさんのことを体験させていただきました。

私の実習テーマは「製品Ａの可視吸収（Vis420nm）を0.45以下で安定化させる」と言うものでした。工場で製造した製品に目標値を上回る可視吸収がみられたため、実機工程の工程解析をすることで工程差異を抽出し、可視吸収に影響を及ぼす因子を明らかにするために実験による検討を行い、最終日には報告会も経験しました。

このテーマが社員のみなさんの実務の一つだと聞き、

自分に務まるのかと不安でいっぱいでした。しかし、指導員の方が丁寧に教えてくださったおかげで、いくつかの工程差異についてデータを得ることができました。最終的な結果としては、検討が足りず、傾向をつかむことはできましたが必ずしも実機との相関が得られず、原因の完全な究明には至りませんでした。とても残念でしたが、実際の仕事では学校の実験のように結果がすぐにでるようなものばかりではないことを学ぶことができました。

インターンシップを通じてたくさんの楽しい思い出と有意義な経験を得ることができました。特に、私たちの学んでいる技術が実際の現場でどのように活用されているのかを見ることができたことや、社員のみなさんの生の声が聞けたことは、これから就職活動をしていく私にとってとても貴重な経験であったと感じます。

お忙しい中インターンシップを受け入れてくださった工程技術課の皆さまに感謝するとともに、今後の勉学に一層励んでいきたいと思います。

インターンシップを終えて思うこと

物質工学科４年　萩谷　紗歩

私はこの夏、化粧品やスキンケア製品などの製造・開発を行っている株式会社アルビオン熊谷工場へ伺い、５日間の研修をさせて頂きました。研修が始まるまでは自分が迷惑をかけずに研修を行えるのかという不安な気持ちが大きかったのですが、工場の方はとても親切な方ばかりだったので、良い緊張感の中で研修に取り組むことが出来ました。

研修では化粧品やスキンケア製品の製造工程の見学と出来上がった製品の仕上げ作業、製造された製品の検査業務、製品の生産技術に関わる業務を体験させて頂きました。どの部署のどの方も自分に与えられた仕事を責任を持って行い、お客様に感動を届けるために１つ１つの製品に対して正面から取り組んでいました。

研修を通して経験できたことはここにまとめきれないくらい沢山あります。今まで体験したことのなかったことをやらせて頂いたことはもちろん、自分達が普段学校で勉強していることが会社でどのように使われているかを知ることも出来ました。自分達が勉強している内容が実際に使われている場面を知る機会はなかなかありません。このことは今後の学校生活を送るにあたっての貴重な体験になったと思います。

今回のインターンシップでは、化粧品やスキンケア製品の製造に関する知識の習得が出来たということ以外にも、仕事に対する取り組み方や人と協力することの大切さなどを学ぶことが出来ました。

この５日間で経験したこと、学んだことをこれからの勉強や生活に活かし、今まで以上に頑張っていきたいです。

最後になりましたが、お忙しい中、研修の指導のために時間を割いて下さった株式会社アルビオン熊谷工場の皆さま、本当にありがとうございました。

直に現場で学んだ、鉄道土木

建設環境工学科４年　菜花　茂樹

私は東日本旅客鉄道株式会社でインターンシップをさせて頂き、配属先は東京工事事務所品川工事区でした。そこでは現在、品川駅車両基地改良工事が進行中です。日常生活で欠かすことのできない「鉄道」を、根底から支えている「土木」という立場で関わらせて頂きました。主に私が体験したのは、発注者の立場としての工事全体の監督業務です。元請け会社の方々と協力し、竣工させることが主な仕事と言えます。

車両洗浄装置掘削床付け検査立ち会い

車両洗浄装置掘削床付け検査立ち会いでは、必要な深さ・幅が掘削されているかを最終チェックします。その際に、２～３ｍの山留めされた地下に入りました。この工事現場は地下水位が高いので、足場は泥々していました。何度か安全靴が抜けなくなりそうな状態になりました。そして、ＪＲ側が確認したということで写真撮影を行いました。他には、レール敷設の現場も見学しました。鉄道クレーンでレールを吊り上げて建設します。車両に直接関わってくる部分で、こちらは軌道という土木分野が行います。東京が寝静まった時間に夜勤もありました。場所は東京工事区の東京ー神田駅間で、

レール敷設現場

東北縦貫線高架化工事を見学させて頂きました。最終の東北新幹線が走った後、線路閉鎖します。当時の工事内容は橋脚の取り付けで、㎜単位の精度が要求されます。そして、事務所へ戻った時刻は午前４時30分でした。

私が体験したＪＲの業務は本当に一部ですが、「鉄道土木」ということで非常に重要な経験・知識等を習得できました。今後は高専での勉学を、将来で実践的に活用できるよう根本的な理解に努めたいと思います。最後に、本当にお世話になりましたJR東日本の方々に感謝の意を表します。

チャレンジ

建設環境工学科４年　松田　沙妃

私は今回、東京にある三菱地所コミュニティ株式会社に行ってきました。この会社の主な業務内容は「マンションの管理」です。その管理の中にも、建物一次診断や日常点検・保守点検など実際に現場で行うもの、また大規模修繕工事のための見積書作成や、建物一次診断の診断結果をまとめる建物一次診断報告書作成など社内で行うものがありました。私の中で一番印象に残っていることは、職場の雰囲気がとても良かったということです。この会社は様々な部署に分かれているのですが、どの部署もとても雰囲気が良かったです。また社員一人一人に仕事に対する熱意と誇りが感じられ、素晴らしい職場だと思いました。

今回のインターンシップ参加者には「チャレンジ」というテーマが与えられました。私はそのテーマの通り、２

週間でさまざまなことにチャレンジしました。実際に働いている人のお話を聞くことができ、さまざまな地方から来た高専生や大学生と出会い仲良くなることができました。それは私にとってプラスになることばかりでした。

「技術は人のためになってこそ」…この言葉は担当してくださった社員の方が私におっしゃってくれた言葉です。この会社で行っている業務はお客様の安心、信頼に直接繋がっていきます。私はこの言葉を聞き、自然と頑張ろうという気持ちになりました。

今回インターンシップで学んだことは、数え切れません。今、自分の成長を直に感じることができるのも三菱地所コミュニティ株式会社の皆さんのおかげだと思います。これから何年後かに私は社会人になります。そのときは立派な社会人になれるよう、インターンシップで学んだことを生かして頑張りたいと思います。

Internship
インターンシップ報告

日本政治の中心地、国会議事堂

コミュニケーション情報学科４年　金成　理沙

今年の夏季休業中、私は吉田泉衆議院議員の国会事務所で秘書のインターンシップをさせていただきました。東京都の第二議員会館で４日間、さらに福島市の東日本大震災復興対策本部の本部長室で１日インターンシップをしてきました。議員会館でのインターンシップでまず驚いたのが議員会館専用の地下通路があり、一度も地上に出ないまま出勤ができるということです。修学旅行で国会議事堂に行った際、周辺でほとんど人を見かけないことを疑問に思っていたのですが、なるほどすべての施設が地下でつながっていたわけです。地下には会議室を始めコンビニ、カフェ、郵便局、靴屋など様々な施設が

揃いとても便利な造りになっていました。また、議員会館ということもありお世話になる事務所の方々にお会いするのもとても緊張していたのですが、とても温かく迎えてくださり、国会議事堂内を案内していただいたり、委員会にご一緒させていただいたりと終始和やかに仕事をすることができました。授業で学んだワードやエクセルを使用した書類作成では公式文書を作成する上での留意事項も教えていただき、大変勉強になりました。自分の将来を考える上で大変貴重な体験をすることができました。

天空ノ城、天城

コミュニケーション情報学科４年　小塚　千晶

私を含めた３人は、静岡県の東急ハーヴェストクラブ天城高原というホテルで２週間お仕事をさせていただきました。

ハーヴェストクラブは富士山を一望できる標高約1000メートルの山中にあり、豊かな緑に囲まれています。そのおかげで度々野生のシカも見ることが出来るほどでした。夜遅くにオレンジの光の外套の下をシカが駆け抜けていく様子は、かなり不気味でしたが…。

そんなのんびりとした雰囲気とは裏腹に、仕事内容は厳しいものでした。毎日冷房の効いたレストラン内で汗

だくになり、仕事が終わるとみんなで死んだように眠っていました。

そんな中、私たちのうちの１人がインターンシップ中に誕生日を迎えたのです。私たちはどうにかしてその子を祝ってあげたいと思い、ホテルの従業員の方々にその趣旨をあらかじめ伝えておきました。するとその誕生日の日、仕事が終わったあと苺やブルーベリーの乗ったホールのケーキを出してくれたのです。疲れも忘れて３人でとても大喜びしたのを覚えています。

ホテルといえば華やかなイメージは、ハーヴェストクラブの従業員のような温かい方々の細やかな配慮と努力の上に出来上がったのだと実感しました。

機械･電気･物流の複合モノづくりを経験して

機械・電気システム工学専攻１年　小野　陽洋

私が２週間のインターンシップで訪れたのは、いわき市常磐西郷町にある東洋システム株式会社です。大手自動車メーカや電池メーカをお客様とし、二次電池の試験装置を製造・販売している企業です。装置は数ユニットで１システムを構成し、数百万～数千万円します。私は生産部（製造フロア）で、装置の組み立てや搬出準備の実習を行いました。

皆さん、ねじを「正しく」締める・緩めることはできますか？実習では、ねじを締める･緩める際の力（トルク）の正しい掛け方という「技術者にとって常識の範囲」を学ばせて頂きました。電気系の実習としては、200ボルト用ケーブルへの端子圧着を行い、ケーブルのスケア（断面積）と許容電流の関係、使用すべき圧着端子の規格という「電気系の暗黙の了解」を理解しました。搬出準備の作業は、養生テープによる部品固定、プチプチと業務用

ラップによる梱包を行いました。

本科では、授業等で様々な工場を見学してきましたが、東洋システムの製造フロアはそれと異なり、十数人の社員で様々な工程をこなしており、やりがいと達成感が得られる職場であると感じました。そして、機械系の学生は工作機械を用いたモノづくり、電気系の学生は電気回路中心のモノづくりを行いますが、実際の現場では、「技術者はマルチである」必要があると感じました。機械系がわかる、電気系がわかる、丁寧な作業ができる、梱包も丁寧にできる。技術者の理想像の一つだと思います。

津波で家を失ってしまいましたが、家を建て直すためにも地元での就職を視野に入れています。今回いわきにある企業を見直すことができ、本実習は就職活動を始めるにあたり非常に意味のあるものとなりました。

まずは元気よく!!!

物質・環境システム工学専攻１年　伊藤　勲信

この度私は、インターンシップとして財団法人ふくしま市町村建設支援機構業務部設備課水道関係に２週間お世話になりました。

支援機構さんでは、今年の３月11日に発生した東日本大震災と会津地方等を襲った集中豪雨による水害で膨大な量の仕事が舞い込み、社員の方々は休憩も惜しんで働いていました。そのような忙しい中でも研修生の私に大変親切にしてくれる職場は居心地がよく、私もできるだけ力になれるよう業務に励みました。業務内容は主に図面の整理・修正等でしたが、只見町の土砂崩れ現場にも同行させていただきました。土砂崩れの現場では、崩れた土砂のなか水道管を辿る調査を行い、泥だらけになって調査しました。

今回のインターンシップを通して学んだことで最も大切だと感じたのは、あいさつの大切さです。社員の方々も「挨拶は元気良くしないとな！」と、おっしゃっていて、出勤した際に元気よく挨拶を交わすことで、業務に対するやる気が湧き、また、職場全体が明るく、活気のある雰囲気になるのを肌で感じました。

その他にも、専門知識や就職活動について、社会人としての言葉使いまで丁寧に指導していただきました（笑）。

今回のインターンシップでは、工学的な知識と大人としてのマナーや心得を学ばせていただいたので、今後の自分の人生の大きな糧にしたいと思います。

最後に、疲れ切った体でいわきに帰ってきた私を出迎えてくれたのは母の手料理でした。おふくろの味はおいしい！

Internship
インターンシップ報告

やっぱりいわきが好き

ビジネスコミュニケーション学専攻１年　小島　礼

いわき市役所観光物産課での２週間のインターンシップでは、いわきの歴史や観光地など、いわきについて深く知ることができました。

まず、いわきの主な観光地である「ほるる」や「夏井川渓谷」、「海竜の里」、「勿来関文学歴史館」、「いわき三重塔」などの施設見学へ行きました。

それぞれ詳しく施設の説明をしていただき、いわき市の歴史や文化など改めて気付いたこともありました。

海竜の里では、ドラゴンコースターと観覧車と空中ブランコのような、明らかに小学生向けの乗り物に乗せてもらいました。施設見学に一緒に行った職員の方も乗ってくれると思いきや、観覧車にはひとりで乗ることになり、乗り終わった後に観覧車は楽しかったかと聞かれるなどユーモアにあふれている職員の方でした。

しかし、３つとも案外本格的な乗り物で楽しむことができました。その後、21歳という若さと、高専で培ってきた知識で、若者がいわきに戻りたい、いわきに住みたいと思えるにはどうしたらいいのか考えました。

いわき市役所のほかに、いわき総合観光案内所で４日間いわきの観光案内などもしました。実際、慣れないアロハシャツを着て市民の皆様を相手に仕事をするのは気恥ずかしかったですが、たくさんの人と楽しくコミュニケーションを取ることができました。

また、観光案内所では毎週ラジオで週末のイベント情報を紹介しているのですが、その原稿を書かせていただきました。案内所のスタッフの方とも仲良くなれて、貴重な体験ができた４日間でした。

いわき市は、未曽有の大震災に遭い大変厳しい状況にあります。観光物産課は、その中でいわき市やいわき市民のために全力で仕事をしていました。

さまざまな体験をさせていただき、とても勉強になったインターンシップでした。

平成23年度 一日体験入学を終えて

入学者対策専門部会長　松　本　匡　以

平成23年度の一日体験入学は、８月６日（土）、７日（日）の一日半で実施されました。例年通り、午前はいわき地区を午後はいわき地区以外を対象としました。

ここ５年間の参加者は、平成18年度781人、19年度687人、20年度687人、21年度793人、22年度841人となっていましたが、今年度は過去５年間で最高の870人の参加を頂きました。今回は、東日本大震災や東京電力福島第一原発事故の影響で参加者の激減が心配されましたが、反対に大幅増でうれしい悲鳴をあげながらの一日体験入学となりました。

今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

＜機械工学科＞

「君のモノづくりが世界を変える」というテーマ名で、①学科紹介　②歯ブラシロボットの製作　③市民に役立つモノづくり　のデモ実験等が行われました。

＜電気工学科＞

「ふれてみよう電気・電子・情報」というテーマ名で、①モノづくり教育にふれてみよう　②ディジタルで開く“画像処理”のとびら　③太陽電池の世界にふれてみようのデモ実験等が行われました。

＜物質工学科＞

「化学への招待－楽しい化学の実験室－」というテーマ名で、①無電解めっきの実験　②欲しいものだけ取り出そう　のデモ実験等が行われました。

＜建設環境工学科＞

「環境にやさしい建設技術」というテーマ名で、①コンクリートの強さを測ろう　②手で触れる“まちづくり”のデモ実験等が行われました。

＜コミュニケーション情報学科＞

「Reach Your Dreams」というテーマ名で、①ビジネスカードを作ろう！　②学科紹介ビデオ　のデモ実験等が行われました。

＜交流コーナー＞

休憩時間等を利用して、①学校紹介　②入試相談　③ミニ研究紹介　④知能ロボコン出場機実演　⑤ブリッジデザインコンテスト紹介　⑥休憩コーナーを設け、実演の見学や相談ができるようにしました。

今年から、学校紹介のパネルの前で各クラブ・サークルの代表学生による課外活動の説明も行われました。

東北地区高専体育大会の結果（平成23年度）

―東北地区大会―　宮城大会

■陸上競技（男子）

学校対抗		第２位
100m	合津　弘貴（3I）	第６位
200m	合津　弘貴	第４位
〃	相沢　賢吾（4I）	第６位
400m	久保田祐輝（2K）	第１位
800m	遠藤　直弥（3E）	第４位
〃	柳内　漢人（2K）	第５位
〃	遠藤　達也（4C）	第６位
1500m	遠藤　達也	第１位
〃	永山　聖也（3M）	第５位
〃	花角　優太（4C）	第７位
5000m	栖原祐太郎（3M）	第５位
〃	植村　飛鳥（2K）	第７位
110mH	神部　光（1K）	第２位
3000mSC	渡部　滉大（1K）	第７位
4×100m R	（庄司（2K）・吉田・相沢・久保田）	第３位
4×400m R	（吉田・神部・相沢・久保田）	第２位
走高跳	宮原遼太郎（2M）	第２位
走幅跳	吉田　将大（3K）	第１位
〃	神部　光（1K）	第３位
〃	鳥谷信太郎（2K）	第８位
三段跳	吉田　将大	第３位
〃	鳥谷信太郎	第５位
砲丸投	吉田　出（5E）	第１位
円盤投	吉田　出	第１位
〃	佐藤　博紀（5M）	第４位
やり投	佐藤　博紀	第１位

■陸上競技（女子）

学校対抗		第１位
100m	後藤映里佳（2C）	第１位
〃	志賀ひかり（2I）	第２位
100mH	後藤映里佳	第１位
4×100m R	（宮路・後藤・志賀・永久保）	第１位
走幅跳	志賀ひかり	第５位
砲丸投	宮路　しほ（1C）	第２位
〃	永久保美樹（4I）	第５位
〃	根本　恵（1C）	第６位
円盤投	宮路　しほ	第１位
〃	根本　恵	第４位
〃	諸橋由紀恵（5I）	第７位
やり投	永久保美樹	第２位
〃	渡部　愛理（1M）	第７位
〃	松原　若菜（4C）	第８位

■バスケットボール（男子）

予選リーグ	福島97－63 一関	第１位
	福島120－56 仙台広瀬	
準決勝	福島108－66 仙台名取	
決勝	福島99－46 八戸	

■バスケットボール（女子）

リーグ戦	福島43－81 八戸	第２位
	福島62－32 仙台名取	

■卓球（男子）

団体戦		第２位
シングルス	中丸　智貴（2E）	第１位
〃	松本　知也（4I）	第３位
〃	青木　勇斗（2M）	ベスト８
〃	江尻　義史（5K）	ベスト16
〃	佐藤　勇人（4K）	ベスト16
〃	桑嶋　隆（4M）	２回戦敗退
〃	渡辺　大樹（5K）	１回戦敗退
〃	鈴木　孝幸（1E）	１回戦敗退
ダブルス	松本　知也 桑嶋　隆	第１位
〃	中丸　智貴 青木　勇斗	第２位

■卓球（女子）

シングルス	安島　真理（5I）	第１位
〃	小野　緑（5K）	第２位
〃	猪狩　美咲（5C）	第３位
〃	安島　恵理（5I）	ベスト４
ダブルス	安島　真理 小野　緑	第１位
〃	猪狩　美咲 安島　恵理	第２位

■剣道（男子）

団体		第６位
個人戦	鈴木惣一朗（4M）	ベスト16
	栗林　広延（5M）	２回戦敗退
	遠藤　祐己（3E）	２回戦敗退
	髙山　直也（3K）	２回戦敗退
	大平　雅人（4C）	１回戦敗退
	平山　貴大（4C）	１回戦敗退
	小松　尚樹（3M）	１回戦敗退

■テニス（男子）

団体戦		第１位
シングルス	武田　章宏（5K）	第２位
〃	佐藤　正隆（4C）	ベスト８
シングルス	蛭田　泰弘（3E）	２回戦敗退
ダブルス	武田　章宏 菅野　晃司（5I）	第１位
〃	佐藤　正隆 渡辺　一貴（4C）	第２位

写真提供：福島高専写真部

■テニス（女子）

団体戦		第１位
シングルス	塚本　仁美（5I）	第２位
〃	吉田　美香（4C）	ベスト８
〃	山田　瑛子（2K）	ベスト８
ダブルス	塚本　仁美 松田　美穂（5I）	第２位
〃	吉田　美香 戸井田　陽（4I）	第３位

■バドミントン（男子）

団体戦		第３位
シングルス	志賀　匠（4M）	第２位
〃	星野　佑一（5M）	ベスト８
〃	吉田　靖秋（3C）	ベスト16
〃	佐藤　一貴（5E）	２回戦敗退
〃	高柴　貫爾（3M）	２回戦敗退
ダブルス	星野　佑一 佐藤　太一（3I）	ベスト８
〃	的場　駿介（5E） 志賀　匠	ベスト８
〃	大塩　智史 鈴木　啓人（3M）	１回戦敗退

■バドミントン（女子）

団体戦		第１位
シングルス	薄葉なつみ（1C）	第１位
〃	小椋　優奈（3C）	ベスト８
〃	小塚　千晶（4I）	ベスト16
〃	西山奈津美（3I）	ベスト16
〃	阿部　佑美（2M）	１回戦敗退
ダブルス	小塚　千晶 小椋　優奈	第２位
〃	西山奈津美 瀧　彩文（2I）	ベスト８
〃	佐藤　春香（5C） 三浦　めい（5I）	ベスト８

一関大会

■バレーボール（男子）

予選リーグ	福島１－２ 仙台名取	第２位
	福島２－０ 秋田	
準決勝	福島２－０ 八戸	
決勝	福島１－２ 鶴岡	

■バレーボール（女子）

予選リーグ	福島０－２ 秋田	第３位
	福島２－１ 一関	
準決勝	福島０－２ 鶴岡	

■ソフトテニス（男子）

団体戦		第３位
個人戦	高橋　憲正（4I）	
	佐藤　伸耶（2E）	ベスト16
〃	大和田　嵩（2K）	
	関本　宏佑（5E）	ベスト16
個人戦	柏原　伸也（4E）	
	柴田　直樹（3E）	１回戦敗退
〃	金丸　允駿（2E）	
	佐野　友啓（1K）	１回戦敗退

■柔道（男子）

団体戦		第７位
個人戦（60kg級）	小島　勇人（3M）	第１位
個人戦（60kg級）	間野目　大（2E）	ベスト８
個人戦（73kg級）	根本　新大（3M）	ベスト８
個人戦（73kg級）	安島　優成（2M）	ベスト８

■柔道（女子）

個人戦（48kg級）	猪原　雅代（2I）	第２位
個人戦（52kg級）	渡部しおり（4C）	第２位

■硬式野球

１回戦	福島１０－８ 鶴岡	ベスト４
準決勝	福島６－１２ 仙台名取	
３位決定戦	福島８－１２ 一関	

■サッカー

１回戦	福島２－０ 仙台名取	第２位
準決勝	福島４－０ 仙台広瀬	
決勝	福島２－２ 一関	
	（ＰＫ ４－５）	

■水泳（男子）

学校対抗		第１位
100m自由形	斉藤　大明（2I）	第１位
〃	吉田　周平（4M）	第６位

200m自由形	斉藤　大明	第２位
〃	横山　佳輝（2M）	第７位
400m自由形	佐藤　祐樹（3M）	第１位
〃	松田　裕樹（1E）	第４位
〃	猪狩　聖人（2E）	第６位
800m自由形	佐藤　祐樹	第１位
〃	松田　裕樹	第４位
〃	猪狩　聖人	第７位
100m背泳ぎ	若松　大介（5E）	第５位
〃	北澤　春樹（4M）	第８位
200m背泳ぎ	北澤　春樹	第５位
〃	若松　大介	第７位
100m平泳ぎ	大友　一生（1M）	第２位
〃	圓子　智宏（2E）	第５位
〃	矢羽々寛和（4M）	第８位
200m平泳ぎ	大友　一生（1M）	第１位
100mバタフライ	山口　修平（4K）	第４位
〃	紺野　貴裕（3C）	第５位
200mバタフライ	紺野　貴裕	第２位
〃	星　丈弘（5K）	第６位
200m個人メドレー		
	圓子　智弘	第２位
〃	山口　修平	第３位
400mリレー（斉藤・松田・山口・佐藤）		第１位
800mリレー（佐藤・山口・松田・紺野）		第１位
400mメドレーリレー（佐藤・大友・山口・斉藤）		第１位

■水泳（女子）

学校対抗		第２位
100m自由形	小野　晶子（1C）	第１位
200m自由形	鈴木　姫花（3I）	第２位
〃	猪狩あゆみ（4M）	第３位
50m背泳ぎ	小野　晶子	第１位
100m背泳ぎ	若松　真純（2I）	第２位
100m平泳ぎ	高橋　奈々（5I）	第３位
〃	佐々木夏子（1C）	第５位
200m平泳ぎ	高橋　奈々	第１位
〃	佐々木夏子	第３位
100mバタフライ	鈴木　姫花	第３位
〃	猪狩あゆみ	第４位
200mリレー（鈴木・若松・高橋・小野）		第２位
400mリレー（小野・猪狩・若松・鈴木）		第２位
200mメドレーリレー（小野・高橋・鈴木・若松）		第２位

―全国大会―

■陸上競技

長野高専（長野市営陸上競技場）

（男子）

学校対抗		第29位
1500m	遠藤　達也（4C）	予選敗退
4×400mR（吉田・相沢（4I）・柳内（2K）・合津（3I））		予選敗退
走幅跳	吉田　将大（3K）	予選敗退
三段跳	吉田　将大	予選敗退
砲丸投	吉田　　出（5E）	予選敗退
円盤投	吉田　　出	第６位
やり投	佐藤　博紀（5M）	予選敗退

（女子）

100m	後藤映里佳（2C）	予選敗退
〃	志賀ひかり（2I）	予選敗退

■バスケットボール（男子）　第２位

都立産業技術高専　荒川キャンパス

（駒沢オリンピック公園総合運動場体育館）

予選リーグ	福島88－62 近畿大学
	福島84－62 釧路
準決勝	福島88－63 神戸市立
決勝	福島71－81 松江

■卓球

サレジオ高専（駒沢オリンピック公園総合運動場体育館）

（男子）

団体戦		第３位
シングルス	中丸　智貴（2E）	第５位
ダブルス	松本　知也（4I）	
	桑嶋　　隆（4M）	第３位
〃	中丸　智貴	
	青木　勇斗（2M）	第５位

（女子）

シングルス	小野　　緑（5K）	第２位
〃	安島　真理（5I）	第３位
ダブルス	猪狩　美咲（5C）	
	安島　恵理（5I）	第１位
〃	安島　真理	
	小野　　緑	第２位

■テニス

東京高専（サニーインむかい共同テニスコート）

（男子）

団体戦		第３位
シングルス	武田　章宏（5K）	1回戦敗退
ダブルス	武田　章宏	
	菅野　晃司（5I）	第３位
〃	佐藤　正隆（4C）	
	渡辺　一貴（4C）	1回戦敗退

（女子）

シングルス	塚本　仁美（5I）	ベスト８
ダブルス	塚本　仁美	
	松田　美穂（5I）	1回戦敗退

■バドミントン

小山高専（栃木県立県南体育館）

（男子）

シングルス	志賀　　匠（4M）	棄権

（女子）

団体戦		1回戦敗退
シングルス	薄葉なつみ（1C）	第３位
ダブルス	小塚　千晶（4I）	
	小椋　優奈（3C）	1回戦敗退

写真提供：福島高専写真部

■柔道

都立産業高専　品川キャンパス（講道館）

（男子）

個人戦（60kg級）	小島　勇人（3M）	1回戦敗退

（女子）

個人戦（48kg級）	猪原　雅代（2I）	1回戦敗退
個人戦（52kg級）	渡部しおり（4C）	1回戦敗退

■水泳

木更津高専（千葉県国際総合水泳場）

学校対抗		第４位

（男子）

100m自由形	斉藤　大明（2I）	第３位
200m自由形	斉藤　大明	棄権
400m自由形	佐藤　祐樹（3M）	第１位
800m自由形	佐藤　祐樹	第１位
100m平泳ぎ	大友　一生（1M）	第６位
200m平泳ぎ	大友　一生	第３位
200mバタフライ	紺野　貴裕（3C）	第７位
200m個人メドレー		
	圓子　智弘（2E）	予選敗退
〃	山口　修平（4K）	予選敗退
400mリレー（斉藤・吉田（4M）・山口・佐藤）		第４位
400mメドレーリレー（佐藤・大友・紺野・斉藤）		予選失格

（女子）

100m自由形	小野　晶子（1C）	第１位
50m背泳ぎ	小野　晶子	第２位
200mリレー（若松（2I）・鈴木（3I）・高橋（5I）・小野）		第３位

高等学校体育大会等の結果

◎第57回福島県高等学校体育大会　県大会

■陸上競技（男子）

走幅跳	吉田　将大（3K）	第10位

■陸上競技（女子）

砲丸投	宮路　しほ（1C）	第８位

■ソフトテニス（男子）

団体戦		2回戦敗退
個人戦	佐藤　伸耶（2E）	
	大和田　嵩（2K）	2回戦敗退
〃	川田　雄大（2M）	
	金丸　允駿（2E）	1回戦敗退

■テニス（男子）

団体戦		ベスト16
シングルス	蛭田　泰弘（3E）	1回戦敗退

■テニス（女子）

団体戦		1回戦敗退

■卓球（男子）

団体戦		3回戦敗退
シングルス	鈴木　孝幸（1E）	ベスト32
〃	大浦　昌也（3E）	3回戦敗退
〃	中丸　智貴（2E）	3回戦敗退
〃	金成　憲吾（1E）	3回戦敗退
〃	冨塚　俊太（2K）	2回戦敗退
〃	青木　勇斗（2M）	1回戦敗退
ダブルス	中丸　智貴	
	青木　勇斗	第３位
		（東北大会出場）
〃	薗部　康太（2M）	
	金成　憲吾	3回戦敗退
〃	大浦　昌也	
	鈴木　将士（3M）	2回戦敗退
〃	冨塚　俊太	
	天野　景介（2M）	2回戦敗退

■卓球（女子）

団体戦		第３位
		（東北大会出場）
シングルス	滑川　侑佳（2I）	ベスト８
〃	金成　亜実（3I）	ベスト16
		（以上２名、東北大会出場）
〃	今野小百合（2K）	ベスト32
〃	齋藤佳菜子（1I）	2回戦敗退
ダブルス	滑川　侑佳	
	今野小百合	第３位
		（全国大会、東北大会出場）
〃	金成　亜実	
	齋藤佳菜子	ベスト16

■剣道（男子）

個人戦	遠藤　祐己（3E）	1回戦敗退

■水泳（男子）

50m自由形	平木　義久（2M）	予選敗退
〃	斉藤　大明（2I）	予選敗退
〃	山下　　秀（1M）	棄権
100m自由形	横山　佳輝（2M）	予選敗退
〃	斉藤　大明	予選敗退
〃	木下　小鉄（1M）	予選敗退
200m自由形	山下　賢也（2M）	予選敗退
〃	横山　佳輝	予選敗退
〃	猪狩　聖人（2E）	予選敗退
400m自由形	佐藤　祐樹（3M）	第２位
		（東北大会出場）
〃	猪狩　聖人	予選敗退
〃	松田　裕樹（1E）	予選敗退
1500m自由形	佐藤　祐樹	第２位
		（東北大会出場）
〃	松田　裕樹	第14位
100m平泳ぎ	大友　一生（1M）	第２位
		（東北大会出場）
〃	圓子　智弘（2E）	予選敗退
〃	増田伊扶己（2K）	予選敗退
200m平泳ぎ	大友　一生	第４位
		（東北大会出場）
〃	圓子　智弘	予選敗退
〃	増田伊扶己	失格
100m背泳ぎ	関根　健恭（2M）	予選敗退
200m背泳ぎ	関根　健恭	予選敗退
100mバタフライ	紺野　貴裕（3C）	予選敗退
〃	山下　　秀（1M）	棄権
200mバタフライ	紺野　貴裕	予選敗退
400mリレー		予選敗退
800mリレー		予選敗退
400mメドレーリレー		予選敗退

■水泳（女子）

50m自由形	若松　真純（2I）	予選敗退
100m自由形	若松　真純	予選敗退
〃	佐々木夏子（1C）	予選敗退
200m自由形	鈴木　姫花（3I）	予選敗退
100m平泳ぎ	佐々木夏子	予選敗退
100m背泳ぎ	小野　晶子（1C）	第５位
		（東北大会出場）
100mバタフライ	鈴木　姫花	予選敗退
200m個人メドレー		
	小野　晶子	第１位

（東北大会出場）
400mリレー　予選敗退
400mメドレーリレー　予選敗退

■バドミントン（男子）
シングルス　高柴　貫爾（3M）　2回戦敗退

■バドミントン（女子）
シングルス　薄葉なつみ（1C）　1回戦敗退

◎第93回全国高等学校野球選手権福島大会
1回戦　高専1－2 県立石川　1回戦敗退

◎第90回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会
1次大会　3回戦敗退
2回戦　高専4－0 県立石川
3回戦　高専1－1 小高工業
（PK 2−4）

◎第65回東北高等学校卓球選手権大会
男子ダブルス　中丸　智貴（2E）
青木　勇斗（2M）　1回戦敗退
女子団体戦　1回戦敗退
女子シングルス　滑川　侑佳（2I）　1回戦敗退
金成　亜実（3I）　1回戦敗退
女子ダブルス　滑川　侑佳
今野小百合（2K）　ベスト16

◎第59回東北高等学校選手権水泳競技大会
男子400m自由形 佐藤　祐樹（3M）　第4位（全国大会出場）
男子1500m自由形
佐藤　祐樹　第2位（全国大会出場）
男子100m平泳ぎ 大友　一生（1M）　第8位
男子200m自由形 大友　一生　予選敗退
女子200m個人メドレー
小野　晶子（1C）　第4位
女子100m背泳ぎ 小野　晶子　予選敗退

◎全国高等学校総合体育大会卓球競技大会
女子ダブルス　滑川　侑佳（2I）
今野小百合（2K）　1回戦敗退

◎全国高等学校総合体育大会水泳競大会
男子400m自由形 佐藤　祐樹（3M）　予選敗退
男子1500m自由形
佐藤　祐樹　予選敗退

◎第64回福島県総合体育大会　県大会
■陸上競技（男子）
110mH　神部　光（1K）　第5位
円盤投　吉田　出（5E）　第7位
■陸上競技（女子）
砲丸投　宮路　しほ（1C）　第8位
円盤投　宮路　しほ　第7位
■バレーボール（男子）
（成年の部）　1回戦敗退
1回戦　高専1－2 ＪＵＮＫＳ
■ソフトテニス（男子）
個人戦　金丸　允駿（2E）
佐野　友啓（1K）　1回戦敗退
〃　佐藤　伸耶（2E）
佐藤　優樹（1K）　1回戦敗退

■テニス（男子）
【男子Ⅰ部】
シングルス　蛭田　泰弘（3E）　ベスト16
ダブルス　蛭田　泰弘
岡田　敦（2E）　2回戦敗退
〃　五十嵐達也（3C）
七海　祐命（2I）　1回戦敗退
【男子Ⅱ部】
シングルス　高木　健志（1I）　ベスト8
ダブルス　高木　健志
渡部　瞬（1E）　2回戦敗退

■卓球（男子）
学校対抗　3回戦敗退
少年男子シングルス
〃　中丸　智貴（2E）　4回戦敗退
〃　大浦　昌也（3E）　3回戦敗退
〃　青木　勇斗（2M）　3回戦敗退
〃　金成　憲吾（1E）　3回戦敗退
〃　鈴木　将士（3M）　1回戦敗退
〃　冨塚　俊太（2K）　1回戦敗退
〃　鈴木　孝幸（1E）　1回戦敗退
成年男子シングルス一部
〃　江尻　義史（5K）　予選敗退
〃　桑嶋　隆（4M）　予選敗退
〃　佐藤　勇人（4K）　予選敗退
成年男子シングルス二部
〃　内田　権一（5C）　1回戦敗退
〃　坂下聡一朗（5C）　1回戦敗退
〃　吉田　貴郎（5C）　1回戦敗退
〃　渡辺　大樹（5K）　予選敗退
〃　石井　裕也（4M）　予選敗退

■卓球（女子）
学校対抗　第2位
少年女子シングルス
〃　滑川　侑佳（2I）　ベスト16
〃　今野小百合（2K）　4回戦敗退
〃　齋藤佳菜子（1I）　4回戦敗退
〃　金成　亜実（3I）　2回戦敗退
成年女子シングルス一部
〃　猪狩　美咲（5C）　予選敗退
〃　小野　緑（5K）　予選敗退
〃　安島　恵理（5I）　予選敗退
〃　安島　真理（5I）　予選敗退

■水泳（男子）
50m自由形　吉田　周平（4M）　予選敗退
〃　紺野　貴裕（3C）　予選敗退
〃　山下　賢也（2M）　予選敗退
〃　横山　佳輝（2M）　予選敗退
〃　圓子　智弘（2E）　予選敗退
〃　増田伊扶己（2K）　予選敗退
〃　斉藤　大明（2I）　予選敗退
〃　木下　小鉄（1M）　予選敗退
〃　菅野裕次郎（1E）　予選敗退
〃　森下　英樹（1E）　予選敗退
100m自由形　西間木悠輔（5M）　予選敗退
〃　吉田　周平　予選敗退
〃　猪狩　聖人（2E）　予選敗退
〃　松田　裕樹（1E）　予選敗退
200m自由形　佐藤　祐樹（3M）　第2位
〃　松田　裕樹　予選敗退
400m自由形　北澤　春樹（4M）　予選敗退
50m背泳ぎ　紺野　貴裕　予選敗退
〃　横山　佳輝　予選敗退
〃　関根　健恭（2M）　予選敗退
100m背泳ぎ　若松　大介（5E）　予選敗退
〃　関根　健恭　予選敗退
50m平泳ぎ　大友　一生（1M）　第3位
〃　山下　賢也　予選敗退
〃　増田伊扶己　予選敗退
100m平泳ぎ　大友　一生　第1位
〃　矢羽々寛和（4M）　棄権
〃　圓子　智弘　予選敗退
50mバタフライ　平木　義久（2M）　予選敗退
〃　斉藤　大明　予選敗退
100mバタフライ　星　丈弘（5K）　予選敗退
400mリレー　第14位
400mメドレーリレー　第9位

■水泳（女子）
50m自由形　鈴木　姫花（3I）　予選敗退
〃　若松　真純（2I）　予選敗退
100m自由形　小野　晶子（1C）　第7位
200m自由形　猪狩あゆみ（4M）　予選敗退
50m平泳ぎ　佐々木夏子（1C）　予選敗退
100m平泳ぎ　佐々木夏子　予選敗退
200m個人メドレー
小野　晶子　第3位
400mリレー　第13位
400mメドレーリレー　第12位

■バドミントン（男子）
シングルス　高柴　貫爾（3M）　1回戦敗退

■バドミントン（女子）
シングルス　薄葉なつみ（1C）　3回戦敗退
〃　小椋　優奈（3C）　2回戦敗退
ダブルス　小椋　優奈
薄葉なつみ　1回戦敗退

◎全日本卓球選手権大会　福島県大会
ジュニア男子シングルス
中丸　智貴（2E）　ベスト16
ジュニア女子シングルス
滑川　侑佳（2I）　第3位（全国大会出場）
混合ダブルス　丹野　淳（CK2）
安島　真理（5I）　ベスト16
〃　松本　知也（4I）
滑川　侑佳　ベスト16
〃　今野　直人（長岡技大学選手・H21年度本校卒業生）
今野小百合（2K）　ベスト16
男子ダブルス　丹野　淳
今野　直人　ベスト16
〃　松本　知也
桑嶋　隆　ベスト16
女子ダブルス　滑川　侑佳
今野小百合　第2位（全国大会出場）
〃　安島　真理（5I）
小野　緑（5K）　ベスト8
〃　猪狩　美咲（5C）
安島　恵理（5I）　ベスト16
〃　金成　亜実（3I）
齋藤佳菜子（1I）　ベスト16
女子シングルス　安島　真理　ベスト8
〃　小野　緑　ベスト16

各種大会等の結果

■写真部
・第18回全国高等学校写真選手権大会
写真甲子園2011東北ブロック　決勝進出
・第36回関東信越地区高専文化発表会　参加
・第35回全国高等学校総合文化祭
企画展特別展示　実施
・いわき街なかコンサートinＴＡＩＲＡ
写真展（アリオス）　実施
・雄国沼撮影会　実施
・白水阿弥陀堂撮影会　実施
・薄磯海岸撮影会　実施
・遠野満月祭撮影会　実施
・飯野八幡宮流鏑馬撮影会　実施
・いわきの秋撮影会　実施

■吹奏楽部
第49回福島県吹奏楽コンクール　金賞

■将棋部
第18回全国高等専門学校将棋大会
団体戦　予選敗退
個人戦　永井　駿（5I）　1回戦敗退
〃　阿部　直樹（4E）　予選敗退
〃　博多　大樹（4E）　予選敗退
〃　矢部　幸祐（2E）　予選敗退
〃　佐波　克久（2K）　予選敗退

■茶華道部
・第36回関東信越地区高専文化発表会　参加

■演劇部
・第36回関東信越地区高専文化発表会　参加

■山岳部
・一切経山登山　実施
・安達太良山登山　実施
・男体山登山　実施
・会津駒ヶ岳登山　実施
・那須岳登山　実施
・磐梯山登山　実施

■サイクリング部
第30回桧原湖一周ファミリーサイクリング大会　参加
第44回福島県サイクルスポーツ猪苗代大会　参加

■ラグビー部
・第4回東北地区高専ラグビー講習会　参加
・東芝ブレイブ・ルーパスによる
ラグビークリニック　参加

■エネルギー研究会
ワールド・グリーン・チャレンジ
ソーラーカー ＆ ＦＣカーラリー
ソーラーカー部門チャレンジクラス　第3位

■ソフトウェア研究部
第58回ＮＨＫ杯全国高等学校放送コンテスト
福島県大会いわき地区予選
吉田　怜楠（3I）　朗読部門　第8位

■弓道愛好会
・第57回福島県高等学校体育大会弓道競技県大会
個人戦　四倉　弘一（3M）　予選敗退
横山　雄太（3E）　予選敗退
林　咲季（3C）　予選敗退
前田美菜子（3I）　予選敗退
・第33回全国高等専門学校通信弓道大会　参加
・第12回いわき明星大学賞学校弓道大会
女子個人戦　前田美菜子（3I）　第4位

■ストリートダンス愛好会
・第36回関東信越地区高専文化発表会　参加

■弦楽アンサンブル愛好会
・第36回関東信越地区高専文化発表会　参加

柔道部

「ジャシ！ジャシ！ジャシ！」の音 ～夢を追い求めて～

柔道部顧問　秋山　秀博

昭和58年４月八戸高専から本校に転任して早、30年目になります。以来ずっと柔道部の顧問として部員達と一緒に稽古着を纏続けてきました。この度、初めてクラブ活動についての原稿依頼を頂きました。今までの本欄を見ると例年大活躍した常勝チームの＜栄光の試合記録＞が所狭しと踊っていました。その点、部員数も常に10人前後でなおかつ、初心者が大半を占めるわが柔道部は、胸を張って記すことのできる試合記録などありませんので、活動のありのままを紹介させて頂くことと致します。

扨、今年の東北大会では個人戦で全国へ出場した選手もいましたが、成績は＜栄光の記録＞にはほど遠いものがあります。そんな弱小チームでも一点だけ自負しているものがあります。それは、“夢”です。さらに夢を追い続ける部員同士のきずなの強さです。先日震災でほとんど破れかかっていた先輩達の寄せ書き（「全国制覇」の大きな目標を認たもの）を部員達の手で見事に復元させていたのでした。その光景を見て小生、不覚にもこみ上げてくるものを抑えるのに必死になっていたら例の音が聞こえてきたのです。

それは、私がいわきに転任して４～５年経った頃の話です。それまで名簿上20名は優に超す大人数であったものが激減し、とうとうたった一人にまで減った年のことでした。その卒業生のＹ君は、柔道がほとんど初心者で、体重も60kgそこそこでした。しかし、やる気だけは人一倍ありました。二人で相談し、朝のランニングと打ち込み、そして毎日のように近隣の学校へ出稽古に行くことを決め実行しました。とりわけ朝練に関しては、強い思いがあり、雨天以外はとにかく欠かさずグラウンドへ出ようということで始めました。夏は早朝といえども小一時間のトレーニングを一通りやれば汗がしたたり落ち、着替えて１時限目へと向かいます。また、最も苛酷なのは、真冬、霜柱の立つ厳寒の季節です。「ジャシ！ジャシ！ジャシ！」とＹ君の霜柱を踏みつける音を聞きながら、只管お互い来る日も来る日も走り続けました。例の音とはその時の霜柱を踏む靴音だったのです。

５年後鍛え抜かれた86kgの身体は、入学時とは別人でした。そしてその寸分の狂いもない精密機械のような力が相手に伝わり、筑波大学生をも抑え込んでしまう合理的な寝技は、Ｙ君の徹底した研究心の賜物でした。正に小生、学生時代、史料にて何度も何度も読み返した100年前の『高専柔道』※そのものでした。

素人でもいい、体が大きくなくとも構わない、直向きさと旺盛な研究心さえあればいい。５年間という素晴らしい時間がある。そんな思いで38年前八戸に赴任し、以来その思いは基本的に不変です。さらに福島へ来て、（当たり前のことではありますが、）たとえ一人でもやる気のある部員がいたら常にその一人のために全力で指導に当たるべきである、の理念は、このＹ君の時に身を以て教えられ、私の大事な指導方針の一つに加えられたと思っています。

たかがクラブ活動ですが、若き学生時代に大きな夢を抱き、その大きな夢の実現のために仲間と共に苦しい練習を頑張り通し、目の前の小さな目標を一つ一つクリアして行くこと、そしてそれを何としても５年間継続することが私はとても大切ことだと信じています。

本校の使命の一つに＜教育＞があり続ける以上、勉強が正に継続（＝習慣化）するところに大きな成果を期待するのと同様に、真にその内容を深く掘り下げようとするならば、教科外活動においても継続の重要性において、論を待たないと考えるのです。即ち、教科活動と教科外活動とが車の両輪（或いは「文武両道」）と称される所以であると思います。ところで、高専の高専たる姿は那辺にありや、と尋ねられたら、実はその辺りにこそ真の正解が潜んでいるのかもしれません。暑かった今年の夏も過ぎ、いよいよこれから急激に秋から冬へとひた走るこの頃ですが、そんな思いを胸に今年も「ジャシ！ジャシ！ジャシ！」の音を聞きたいものです、、。

(2011/10/4記)

※大正３年から昭和18年までの約30年間に亘り、旧制高校や専門学校で行われていた学生柔道のこと。

写真提供：福島高専写真部

福島高専演劇部紹介

演劇部顧問　石原　万里

福島高専演劇部は、今年度、愛好会から部に昇格し、新たな一歩を踏み出しました。演劇部は、磐陽祭での公演に加えて、年１、２回の学内公演を行なっています。ファンタジーとコメディに真面目なメッセージを織り込んだ作品を得意としています。これまでに、童話のパロディ、不思議の国のアリスを主人公にした創作ファンタジーなどさまざまな舞台を上演しました。

昨年度の磐陽祭では、部員の執筆した『Calling』という自殺をテーマとしたシリアスな作品にも挑戦しました。演じるのが難しい作品でしたが、大変好評でお客さんの中には涙する人たちもいました。

昨年度と今年度は、関東信越地区高専文化発表会に参加しました。今年度は群馬の渋川市民会館で、部員が執筆した『赤ずきんとわがまま狼』の公演を行いました。校外にて発表出来る場があるというのは、学生にとって励みとなり、自信にも繋がりました。

文化発表会では、福島高専演劇部は、夏休みの練習の成果を十分に発揮することが出来ました。発声、滑舌、柔軟体操の基礎練習を続けていたので、本番でも、声が会場の後ろまではっきり通りました。芝居や脚本だけでなく、衣装とメイクにもこだわり、それぞれの個性を引き立たせていました。大道具班が夏休みに作成した、木も、背景の城も、作品の雰囲気をよく表していました。特に木は、倒れないようにたくさんの工夫が凝らされています。前日の小一時間のリハーサルでは、会場の音響装置と照明装置に初めて触れたにもかかわらず、その短時間で、すべての調整を行なった技術は素晴らしいものです。学内公演で使う照明とコンポとは違う本格的な装置を見事に使いこなしていました。舞台設置の黒子は暗転時に光る「蓄光テープ」を、公演直前に舞台に貼り、暗転時の場面転換をスムーズにこなしました。演技、演出、音響、照明、大道具小道具、衣装、メイクとすべてに細かくこだわった素晴らしい舞台でした。

１月にも学内公演を予定しています。興味のある方はぜひ見に来てください。

赤ずきんにおつかいを頼むわがままな母

狼に銃を向ける謎の男

演劇部

公演が終わって

新任教職員紹介

一般教科（数学科）准教授
宮本　拓歩

今年４月より一般教科(数学)の教員として着任いたしました。３月11日の大震災もあり、慌しい中で授業がはじまり、あっという間の５ヶ月間でした。実際に教育に携わり、一筋縄ではいかないことも多く、四苦八苦の毎日を楽しく過ごしています。

工学を学ぶ上で数学の果たす役割は大きいように思います。講義を通して、皆さんが基礎である数学をしっかり理解できるよう、努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

機械工学科　教授
木下　博嗣

機械工学科の木下博嗣です。札幌からこの４月に福島に参りました。単身の生活もだいぶ慣れ、少し余裕も出て参りました。経歴は、大学院修了後、アルミサッシメーカーに３年、その後特殊な土木資材のメーカーに４年就労後、大学に戻り平成23年３月まで研究を続けて参りました。専門は金属材料で、主として電子顕微鏡を使用して、原子力関連の材料開発および材料物性をミクロな観点から追求していました。また、健康のために、マラソンと卓球をやっております。よろしくお願いします。

電気工学科　准教授
三島　裕樹

高専機構の高専・両技科大間教員交流制度を利用して，今年５月に函館高専から本校に赴任して参りました。同じ高専であっても，いろいろな制度や仕組みが異なっており驚きの連続です。11ヶ月間と少し短い交流期間ですが，できるだけ多くの福島高専の素晴らしい所を勉強したいと思っています。それとともに，他の高専の状況を少しでも皆さんにお伝えできたらと思います。専門分野は電力システム工学で，電気工学科の高学年の授業等を担当しています。すでに交流期間の半分を過ぎてしまいましたが，どうぞよろしくお願いいたします。

コミュニケーション情報学科　准教授
湯川　　崇

４月にコミュニケーション情報学科に着任した湯川崇です。コミ科で情報系科目を担当しています。出身は秋田市で、大学も最初の勤め先も秋田でしたので漠然と外の世界にあこがれていました。数年前からその思いがだんだん強くなり、ついに転職を決意し、縁あって福島工業高等専門学校に採用になりました。

こちらにきて感じたのは美しい自然に恵まれていることです。特に、春から夏にかけてどこにいても鶯のさえずりが聴こえてくることに感動しました。このような恵まれた環境で職務に専念できることに感謝しております。よろしくお願いします。

総務課総務課長補佐(財務担当)
岩澤　一雄

７月１日付けで、筑波大学システム情報工学等支援室から本校に赴任いたしました。筑波大学に採用以来約32年、つくば市以外で勤務するのは今回が初めてです。未曾有の大震災の傷跡をまだ至る所で目にし、また原発災害というものを身近に感じる日々ですが、前向きに復興に向けて頑張るいわき市の皆様を見るにつけ、私も微力ではありますが、福島高専の役にたつよう頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

総務課人事係長
林　　篤志

１分３敗。予選プール最下位で桜は散った。ネットで結果を見てしまった後、深夜の中継を見る味気ないW杯。近年の情報流通の速さもこういう時には良し悪しだ。

２勝を目指し強化してきた日本代表には努力が必ずしも結実しない厳しい現実が待っていた。だが、持てる技能、知識を総動員して創意工夫のもと強敵と正対する選手達の姿から、近い将来の勝利の可能性と同時に、暗い世相を吹き飛ばすヒントも透けて見えた。

この原稿の執筆は９月末。福島高専に赴任し早３か月、必死で楕円球を追った高校時代を思い出す2011年初秋。

総務課財務係
下山田秀隆

７月より茨城大学から赴任しました、総務課財務係の下山田秀隆と申します。出身地であるいわき市で業務に携わらせて頂くことができ、大変嬉しく思っております。

財務の実務経験は今回が初めてであるため、戸惑うことも多いのですが、１日でも早く的確に業務を行えるようになりますよう、頑張っていきたいと思っております。

至らない点も多々あるかと思いますが、一人でも多くの方のお力になれればと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

学生課学生課長補佐
佐藤　誠典

４月１日付けで福島大学地域連携課から本校に赴任いたしました。福島大学では、平成16年度から学生課で課外活動や奨学金、授業料免除などの業務を３年ほど担当しており、学生系に配属されるのは４年ぶりです。大学に比べると学生の年齢が若いので、時々対応に戸惑うこともありますが、廊下ですれ違う時など元気に挨拶をしてくれる学生も多く、先生方の指導が行き届いていることを実感しています。少しでも福島高専のお役に立つよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

東日本大震災特集にあたって

福島工業高等専門学校長　奈　良　宏　一

平成23年３月11日、大会議室で開催されていた教員会議で、卒業予定者の卒業要件充足を確認し終った直後のことでした。緊急地震速報の警報とほぼ同時に小さな縦揺れが続いた後、震度６の激しい大きな横揺れが数分間続きました。後でわかったことですが、宮城県沖、福島県沖、茨城県沖を震源とする日本で記録された地震では過去最大のマグニチュード９という大きな連動地震でした。この地震直後の大津波は、場所によっては15mを超える想像を絶するものでした。いわき市小名浜港への津波襲来のテレビ中継映像を見ながら犠牲者が出ないことを祈るのみで、何もできないもどかしさを感じていました。さらに、この地震と津波によって、福島第一原子力発電所で冷却機能を完全に喪失する大事故が発生しました。本校との距離を地図で確認しながら、福島第一原子力発電所から約45km、第二発電所から約35kmしか離れていない本校に影響が出ないことを祈るしかありませんでした。しかし、その祈りも虚しく、広い地域の放射能汚染による混乱のうえに、本校への通学区域を含む一定程度以上の放射線汚染地域では、多くの人々が半年過ぎた現在も自宅に戻ることができないでいます。

日本は地震国であり、地震に対する備えは普段から出来ていたはずです。しかし、大地震に対する備えが十分ではなかった部分では、なすすべが無かったのが現実です。日本人の経験と想像をはるかに超えた自然の猛威に私達はただ驚くしかありませんでした。原発事故では、日本の技術力と危機管理の徹底をもってすれば間違いなく防ぐことができたであろうはずの災禍を目の当たりにして、私自身、電力システム技術を専門とする研究者として、自らの無力さを思い知らされました。この大地震と津波さらに原発事故は、すべての技術者に対して、あらゆる想定をしたモノづくりの重要さを再認識させる警鐘となりました。

本校では、幸いにして、この地震による直接的な人的被害は無く、また、主な建物の耐震改修が終わっていたために、地震の大きさに比べて建物損傷も軽微で済みました。しかしながら、家族に死亡や行方不明が出た学生が７名、家が全壊、または、原発事故で家に住めなくなった学生が147名、家が半壊の学生が108名（10月現在）と、全学生のおよそ１／４の学生が大きく被災しています。改めて、この震災の規模を感じます。本校では、地震直後に災害規模を予測して、３～４月に予定していたすべての行事を中止する措置をとり、原発と余震が沈静化するのを待ちました。その一方で、大規模余震発生時の対策や原発異常発生時の行動マニュアルなどの整備と学生や教職員が落ち着くのを見極めて、５月９日から本年度の授業を開始しました。授業開始にあたり、放射線対策として、学内清掃、校舎出入口へのマット布設、６月までの屋外体育授業の屋内振替などの措置をとり、さらには学生代表に累積線量計を持たせた線量監視を行うなど、本校として、継続的に学生の累積被曝線量が最少となるよう努力をしてきています。

この大災害に対し、全国の高専・大学や多くの企業から、多大なご支援をいただきました。支援物資や義援金をはじめ被災学生40名以上への奨学金、制服の無料給付など、非常に温かくきめ細かいご支援を賜りました。心からお礼を申し上げます。

これらのご支援に感謝しながら、震災直後から学校としても、地域の復興に向けてさまざまな取組を始めています。高専近隣住民や隣接町村からの避難住民に避難所として校舎の一部を開放し、教員の一部は地域の震災被害調査、放射線調査、復興支援相談等にあたりました。また、一部の学生は自主的なボランティアでいわき市内のがれき処理等にあたりました。教職員の支援活動や、ボランティアにおける本校学生の活躍は地域からも称えられているところです。いま、余震や原発が落ち着きを見せてきておりますが、本校では、さらに長い先を見据えた復興人材育成や放射線対策支援の他、新産業創成支援など地域支援活動を展開する予定にしています。引き続き、皆様の温かいご支援ご鞭撻をお願い致します。

地震直後、放送により集まった学生たち

危機管理室と災害対策本部

低学年棟前道路のひび割れ

越後製菓㈱様からの救援物資搬入

地震により図書館の本が落下

守衛所の地盤沈下

福島高専地域復興支援会議

地域環境テクノセンター長　原　田　正　光

本校の地域環境テクノセンター内に設置した地域復興支援会議について紹介します。

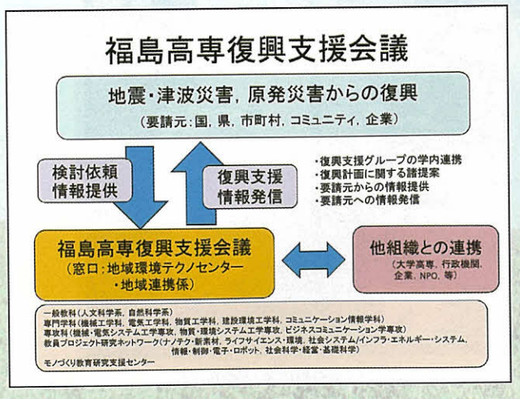
高専の役割と言われている教育研究と地域貢献，その一端を担っている地域環境テクノセンターですが，地域と連携をしながらの地域貢献を通して，これまで培ってきた教育研究の質の向上に取り組んでいます。このようななか，今年３月11日に発生した大震災は地域に対して甚大なる災害をもたらし，震災後半年を経た現在に至っても，その復旧・復興に大きな影を落としている状況です。これまで支援を受けてきた地域に対して，本校の人材や施設など教育研究環境を活用して何らかの復興支援ができないかというところから設置されたのが福島高専地域復興支援会議です。

大震災直後から地震や津波の被害，福島第一原発の事故による放射能汚染被害およびこれに伴う風評被害を被ってきましたが，これらの現況把握調査に始まり対策検討などに対してこれらを専門分野とする本校の先生方がさまざまな活動を繰り広げています。復興支援会議では，学内の情報交換によりこれらの活動に横のつながりを持たせること，外部からの復興関係の情報を学校内に紹介することでこれらの活動がスムーズにまた効果的に行われるようにしたいと考えています。そして，国や地方自治体，地域コミュニティや企業などの復興に関する諸課題に対して解決策の検討や提案を行なうなどの支援を，場合によっては他大学や研究機関などの外部組織と連携しながら進めていくとともに，取り組みの内容を外部に情報発信していきたいと考えています。

本校には一般教科や各専門５学科があり，先生方が各専門分野の研究活動に従事していますが，さらに各学科・各専攻の枠組みを超えて，ナノテク・新素材，ライフサイエンス・環境，社会システム／インフラ・エネルギーシステム，情報・制御・電子・ロボット，社会科学・経営・基礎科学など５つの教員プロジェクトブロックに分けたネットワーク研究活動なども行なわれてきています。これまで，中山間地域の活性化，景観保全，自然環境保全，観光資源活用などまちづくりに関する調査研究，市民の生活環境の保全，学校・コミュニティなど地域の学習支援，ＮＰＯ団体の活動の支援など市民生活の支援などにも貢献しています。さらに，地域企業の技術相談や技術支援，ビジネスモデルの創出，人の交流や物流の活性化など経済活動の分野でも調査研究を通して貢献実績があります。今回の大震災からの復興は，市民が安全にかつ安心して楽しく元気に生活できるまちを取り戻す作業になり，まち（インフラ），市民生活，経済活動の再生が必要です。本校としてもこれまでの貢献実績をもとに，これら課題の克服へ向けて取り組んでいくことが使命であるとの思いを強く抱いています。

現在，支援に関する幾つかの取り組みが行なわれています。いわき市からの受託事業では，「災害廃棄物の減量化リサイクル手法の検討」と「いわき市における放射性物質の分布調査」，双葉郡広野町との共同研究では「広野町環境（放射線量）調査」など自治体が抱える課題の解決に向けた取り組みなどがあります。また，全国中小企業団体中央会からの委託を受けて，ものづくり人材育成・確保事業として，被災による失職者や求職者・被災地の中小企業従業員を対象に「３次元ものづくりの高度化と機械加工の基礎に関する研修」を予定しています。このほか，各研究室単位でまたは地域のＮＰＯ団体と連携して災害復興問題や放射能汚染問題に精力的に取り組んでいる専門分野の先生方もおり，さまざまな形で地域の復興支援に関わっている状況です。今後もしばらくは，地域の一日も早い復興を願いながら，復興支援に関わっていくことになると思われます。

最後に，保護者の皆様や高専協力会企業の皆様へのお願いですが，地域の復興支援に関してのご意見や要望がございましたら，窓口である本校総務課地域連携係までお気軽にお寄せください。



二度と同じことを繰り返さない，復興まちづくりに向けて

建設環境工学科　齊　藤　充　弘

この度の震災において，亡くなられた方，被災された方に心よりお見舞い申し上げます。

３月11日（金），教員会議中に発生した大震災。周囲の携帯電話の緊急地震速報を知らせるブザー音が鳴り始めるとともに，間もなく大きな揺れが始まりました。震災から半年が経過した今でも，鮮明に覚えているその光景ですが，地震直後は，揺れが続いた時間の長さを除いては，子供の頃に経験した日本海中部地震の揺れとごう音の記憶と比較して，それほど大きな地震ではなかったのではないかと思いました。ところがその後，その考えは一変させられることになります。

いつもと違うまちの光景やただならぬまちの息づかいを感じ，また12年前に経験したＪＣＯ臨界事故の記憶が蘇り，とにかく「記録しなければ」との思いから，翌日（12日・土）より，カメラを手に平のまちから沿岸地域へと記録に走りました。日頃から教育・研究の場として接してきたまちの変わりようには，ただ驚き，困難も伴いましたが，今となっては貴重な記録となっています。

現在，いわき市では「みんなで，がんばっぺいわき！～日本の復興をいわきから～」というキャッチフレーズの下，「復興ビジョン」を策定し，具体的な「復旧・復興事業計画」の策定に取り組んでいます。両計画の策定に携わり，とりまとめ役を務めることを通して，対象の大きさや考慮すべき事項の多さに，その重責に，身の引き締まる思いで臨んでいます。また，「津波被災市街地復興手法等検討調査作業監理会議」に参加し，国や県，市，コンサルタントの方々と共に，いわき市内沿岸21区域毎に被災状況を明らかにし，その復興パターンについて協議しています。法律の壁，財源の壁，地域住民の多様な意見の壁に直面する中で，少しでも良いまちづくりとなるよう，復興に向けて知恵を出し合っています。このような計画策定に携わる中では，授業において日頃から学生に対して話している，「広い視野と柔軟性を持って臨み」，「全体を把握し，見通した上での発言と行動」が求められています。（土木）計画学について学び始めた当初の恩師の言葉を思い返し，その重さを実感するとともにこれまでの不勉強を嘆き，当時の教科書を引っ張り出し，勉強する日々が続いています。

震災後もいわきのまちの様子は記録していますが，計画の策定を待たずして，市民一人一人の力により，まちは急速に復旧，復興へと動いています。先日参加したあるシンポジウムにおいて，大きく耳に残った言葉がありました。それは，「今後の復旧・復興に向けて，根底になくてはならないものは，鎮魂である。生きている者の論理を先行させてはならない。２万人以上の方が亡くなったという事実を忘れずに，最大限の安心・安全の確保に取り組まなくてはならない。」という言葉です。いわき市においても300名を超える方が亡くなっています。その方たちへの鎮魂を忘れずに，「もう，あのような思いはしたくない。」，「あんなまちの姿は見たくない。」との思いを胸に，二度と同じことを繰り返さないために，これからも地域の復旧・復興に息長く取り組んでいきます。

（震災直後）

（震災１ケ月後）

写真　県道四倉豊間線の復旧